

2022年8月24日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
(東証プライム / 証券コード: 3762)

Java 対応テスト自動化ツール「Jtest 2022.1」の販売を開始 CWE ver.4.6 や OWASP Top 10-2021 など 10 種類のセキュリティコンプライアンスに 違反するコードを検出。

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：由利孝、以下「テクマトリックス」）は、米国 Parasoft Corporation（本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa、以下「Parasoft 社」）が開発した Java 対応テスト自動化ツール「Jtest 2022.1」（以下「Jtest」）の販売を 2022 年 8 月 24 日より開始します。

「Jtest」は、静的解析と単体テスト支援によって、Java ソースコードの品質可視化と単体テストの効率化を強力にサポートする Java 対応テスト自動化ツールです。静的解析では、コーディングルール解析とフロー解析という 2 種類の解析方法で、ソースコードに潜む問題点を指摘します。コーディングルール解析では、2,000 個超のルールでソースコードを検証し、プログラム中の問題の未然防止や保守性の向上を支援します。フロー解析では、クラスやパッケージを横断する膨大な数の処理フローの中から、リソースリーク、セキュリティ脆弱性などのバグの可能性が潜む特定のフローを検出します。単体テスト支援では、Java 単体テスト用オープンソースフレームワークである JUnit で利用可能なテストテンプレートやモックを自動作成し、単体テストにかかる工数を削減します。さらに、Web ブラウザー上でダッシュボード表示によるさまざまな情報提供が可能なレポート機能も装備しており、リモートワーク業務下においてもプロジェクトメンバー間で効率的なソースコードの品質レビューが行える環境を提供します。

このたびのバージョンアップでは、静的解析機能と単体テストアシスタント機能がそれぞれ強化されました。静的解析機能では、CWE（Common Weakness Enumeration）の ver.4.6 や CWE Top 25 2021（+On the Cusp）、OWASP Top 10 2021 といったセキュアな Java プログラムを作成するためのコーディングルールが追加され、プログラムがセキュリティコンプライアンスに即しているか、開発の早い段階から、確認できるようになりました。単体テストアシスタント機能では、テストスイート生成時にテストカバレッジの範囲を設定する機能が追加され、テストの目的に合わせたテストスイートの準備が行えるようになりました。環境面では、Azure DevOps や GitLab との連携が強化され、それぞれの形式のレポート生成が可能になりました。さらに、Jtest の公式コンテナイメージが Docker Hub に公開されました。これらの機能により、Java 開発において Jtest は、ソフトウェアの欠陥に起因するビジネスリスクの回避に大いに貢献します。

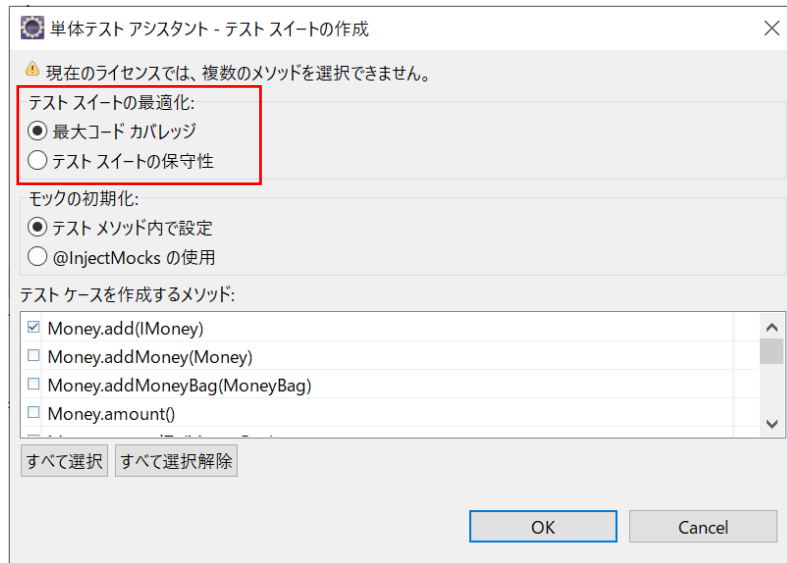
テクマトリックスは、Parasoft 社製品の国内総販売代理店として、Java ソフトウェア開発に携わるすべてのお客様の課題解決に最適なツールとして、Jtest の販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を強化してまいります。

【Jtest 2022.1 の新機能・改善点】

- ・ **CWE4.6 や OWASP Top 10-2021** といったセキュリティコンプライアンスルールを追加
セキュリティ関連のルールを中心に、静的解析のルールが多数更新されました。ソフトウェアの脆弱性を識別するための共通脆弱性タイプ一覧である CWE (Common Weakness Enumeration) の ver.4.6 や CWE Top 25 2021 (+On the Cusp)、OWASP Top 10 2021 といった 10 種類のセキュリティコンプライアンスに対応しました。

【Jtest のセキュリティコンプライアンスルール】

- ・ OWASP Top 10 2021
 - ・ OWASP Top 10 2017
 - ・ OWASP API Security Top 10 2019
 - ・ PCI DSS 3.2
 - ・ CERT for Java
 - ・ CWE 4.6
 - ・ CWE Top 25 2021
 - ・ CWE Top 25 +On the Cusp 2021
 - ・ UL 2900
 - ・ DISA-ASD-STIG
- ※ セキュリティコンプライアンスルールによる解析には、「セキュリティコンプライアンスパック」オプション（別売）が必要です。
- ・ **Azure DevOps との連携**
Azure DevOps に拡張機能として Jtest extension for Azure DevOps が追加され、Jtest と Azure Pipelines の連携が可能になりました。Jtest で解析を実行すると、Azure DevOps 固有の SARIF フォーマットのレポートが生成されるので、Azure Pipelines 上で解析結果の確認を行えます。
 - ・ **GitLab との連携**
GitLab ワークフローで Jtest の解析を実行することにより、SAST フォーマットで解析レポートの生成が可能になりました。Jtest の解析結果を Java プログラムの脆弱性として GitLab で参照できます。
 - ・ **OpenID Connect のサポート**
OpenID Connect を介して Parasoft DTP へのユーザー認証が可能になりました。
 - ・ **Docker コンテナへの Jtest のデプロイをサポート**
Docker コンテナへの Jtest のデプロイがサポートされました。すぐに利用できる Jtest の公式コンテナイメージを Docker Hub 上に公開しました。
※ Docker コンテナ上で Jtest を利用する場合はフローティングライセンスが必要です。
 - ・ **単体テストアシスタントのテストスイート作成機能を強化**
テストスイート作成時に、最大コードカバレッジとテストスイートの保守性のオプションを切り替えてテストスイートを作成できるようになりました。最大コードカバレッジでは、必要最小限のテスト数で最大限の実行経路をカバーするテストコードを生成し、テストスイートの保守性では、主要なテストスイートのみを作成します。テストの目的に合わせて、テストスイートの作成オプションを切り替えることで、本来必要のないテストを実行したり、テスト結果を確認したりすることによって生じる余計な工数を削減します。

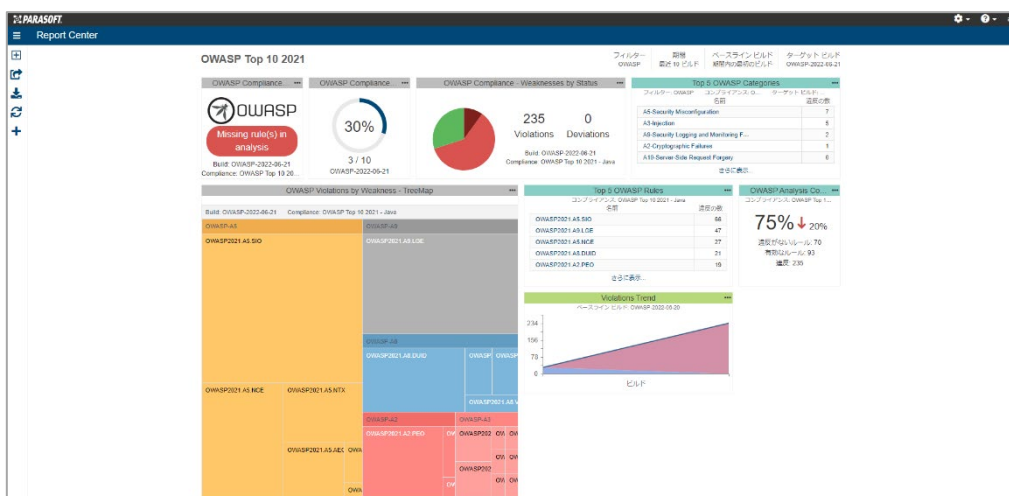


さらに、Lombok フレームワークを使用したクラスから、テストコードを生成できるようになりました。モックの初期化機能では、新たに Mockito の @InjectMocks のサポートを開始しました。

【Parasoft DTP 2022.1（レポートニング機能）の新機能・改善点】

- **Docker コンテナへの Parasoft DTP のデプロイをサポート**
すぐに利用できる Parasoft DTP の公式コンテナイメージを Docker Hub 上に公開しました。
- **コンプライアンスの遵守を促進するパッケージを更新**

Jtest の CWE Compliance アーティファクトで CWE 4.6 がサポートされました。さらに OWASP Top 10 2021 も追加されました。Jtest による静的解析の結果から OWASP Top 10 2021 や CWE 4.6、CWE Top 25 2021 に則ったレポートをいつでも確認できるようになります。ガイドラインの遵守状況の説明責任を果たすことが容易になるだけでなく、未遵守箇所を早期に特定し必要な措置を講ずることにより、セキュリティ上の欠陥のあるソフトウェアに関連するビジネスリスクを排除することが可能になりました。



※本機能を利用するには、「セキュリティコンプライアンスパック」オプション（別売）が必要です。

【稼動環境】

- Windows 64bit
Windows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019
- Linux 64bit
Linux glibc 2.12 以上
- プラグインできる統合開発環境
Eclipse 4.8～4.23、IntelliJ 2020.1～2021.3
- プラグインできるビルドツール
Apache Maven 3.0.3～3.6.x、Gradle 3.3～7.4、Apache Ant 1.7～1.9.14
- 解析対象の Java のサポート
Java 1.3～Java 17

製品の詳細は Web ページ <https://www.techmatrix.co.jp/product/jtest/> をご確認ください。

-
- 販売開始日
2022 年 8 月 24 日
 - 出荷開始日
2022 年 8 月 24 日

2022 年 8 月 24 日において、保守サービスをご契約いただいている Jtest のユーザー様には、「Jtest 2022.1」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

■Parasoft Corporation について

Parasoft 社は、25 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft 社のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、頑強なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 社製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。Parasoft 社のコンサルティングサービスは、ツールでは解決できない問題の解決や開発プロセスの改善など、Parasoft 社の 25 年以上の経験を直接お客様に提供し、お客様の改善活動を支援します。詳細は Web サイト：<https://www.parasoft.com/> をご参照ください。

■テクマトリックス株式会社について

テクマトリックス（東証プライム：3762）は、最先端の情報基盤技術のインテグレーションを提供する「情報基盤事業」、患者と医師、家族と地域社会を結ぶ医療環境づくりを目指す「医療システム事業」、蓄積されたノウハウを実装したアプリケーションの提供により顧客の課題解決を実現する「アプリケーション・サービス事業」の 3 事業を展開し、顧客企業のビジネスモデル変革と競争力の強化をサポートしています。詳細は Web サイト：<https://www.techmatrix.co.jp/> をご参照ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
テクマトリックス株式会社
ソフトウェアエンジニアリング事業部 Jtest 担当
E-mail : parasoft-info@techmatrix.co.jp
TEL : 03-4405-7853

*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。